

六甲山系東部におけるイカリヒメジンガサハムシの多産地

篠原 忠・篠原 弘

イカリヒメジンガサハムシ *Cassida sigillata* (Gorham) は、国内では本州、四国、九州、対馬に分布するハムシで、少ない種とされている(滝沢, 2014).

筆者らは2015年の間に兵庫県西宮市越水社家郷山で本種を227頭確認したので報告する. 本生息地は六甲山系東部に位置し、林床に本種のホストであるアキチョウジが群生する場所である(写真).



イカリヒメジンガサハムシとその生息環境.

採集記録: 1ex., 19. IV. 2015; 12exs., 29. IV. 2015; 40exs., 30. IV. 2015; 30exs., 5. V. 2015; 22exs., 14. V. 2015; 15exs., 2. VI. 2015; 13exs., 9. VI. 2015; 2exs., 12. VI. 2015; 5exs., 15. VI. 2015; 24exs., 28. VI. 2015; 2exs., 10. VII. 2015; 6exs., 23. VIII. 2015; 4exs., 29. VIII. 2015; 50exs., 13. IX. 2015; 1ex., 16. X. 2015.

成虫は4月中旬頃から見られ、5月上旬頃にかけて個体数が多くなるようである. その後一時的に個体数は少なくなるが、9月には新成虫が出現して再び多く見られるようになった.

○参考文献

滝沢春雄, 2014. 日本産ハムシ科生態覚書 (8). 神奈川虫報, (182): 37-46.

(Tadashi SHINOHARA
神戸大学大学院人間発達環境学研究所)
(Hiroshi SHINOHARA 兵庫県西宮市)

兵庫県におけるミカドアゲハの記録

広畑政巳

兵庫県におけるミカドアゲハの採集記録については広畑政巳・近藤伸一(2007)で報告してきたが、近年本種の撮影記録と採集記録が2例あるのでその概要を報告する.

兵庫県においては1958年に登日邦明氏によって淡路市(旧津名郡津名町)佐野で1♂が得られたのが初記録である. その6年後の1964年に同じ淡路市の志筑明神で2頭が奥野修久によって採集された. 県下ではこれまでこの2例の採集記録しかなく、本種は兵庫県においては迷蝶として取り扱われる状態であった.

ところが、最後の採集記録から44年後の2008年5月23日に清水哲哉氏がたつの市新宮町光都1丁目の播磨科学公園都市にある大型放射光施設「スプリング8」の敷地内でシロツメクサと思われる白い花に求蜜にきた本種の撮影に成功された. このことについては2008年6月25日の朝日新聞朝刊の28ページにカラー写真入りで紹介されている. この記録が兵庫県3例目の記録である.

筆者は同年本種の植樹であるオガタマノキで幼虫を確認するため同地を訪れた. 近くの栗ノ木谷公園には植樹されたオガタマノキはあったが幼虫を確認することはできなかった.

その後6年間は記録が途絶えていたが、2014年6月8日に赤穂市上飯屋の大石神社境内にあるオガタマノキで筆者が本種の2幼虫を採集した. 自宅のオガタマノキで飼育をした結果一頭は2014年7月20日に1♂が羽化した. もう一頭は蛹で越冬して2015年5月23日に1♂が羽化している. 聞くところによれば赤穂市では2011年頃から採集されているようである.

難波通孝(2009)によると、本種は山口県に侵入したのは1950年代のようで、その後分布を東に拡大し、1984年に広島県で記録され、それから15年後の1999年には岡山県福山市で確認され、岡山県南部の各地でオガタマノキやタイサンボクを植樹として広い範囲で発生している.

岡山県では主たる植樹は安定して新芽が出るオガタマノキで、タイサンボクは多くの場合発生の途中に利用しているようである. 兵庫県でもタイサンボクは庭木として多く植えられているがオガタマノキは神社など限られたところにしか見られない. 赤穂から姫路にかけての瀬戸内側の地域では少ないながら見られるようであるがその数は限られている.

赤穂市では本種がすでに土着していると思われるが、その後分布をどのように拡大しているのか興味があるところである. 本種についての情報をご教示いただいた難

波通孝氏, 浜中義憲氏, 近藤伸一氏に御礼を申し上げる。

【採集記録】

淡路市(津名町)佐野 1 ♂ 1958 登日邦明

淡路市(津名町)志筑明神 2exs 1964 奥野修久

たつの市新宮町光都 1丁目 1ex (撮影) 23. V. 2008 清水哲哉

赤穂市上飯屋 2 幼虫 8- VI -2014 広畑政巳

○参考文献

広畑政巳・近藤伸一, 2007. 兵庫県の蝶. 岩峰社, 東京
難波通孝, 2009. 岡山県におけるミカドアゲハの分布
拡大 月刊むし (457): 25-31

朝日新聞 2008年6月25日朝刊 28ページ

(Masami HIROHATA 姫路市)

ムラサキツバメの再来

久保 弘幸

ムラサキツバメ (*Narathura bazalus*) は, 暖地性ではあるが, 特に珍種というわけではない。『兵庫県の蝶』(広畑・近藤 2007) によれば, 兵庫県下では播磨の瀬戸内沿岸を中心とした分布域をもっている。私の住む明石市内の団地(明石市大久保町)でも, 2008年ごろまでは, マテバシイの若芽で幼虫を普通に見ることができたし, 越冬中の成虫も観察できた。ところがその後2015年に至るまで, 幼虫も成虫も見られなくなってしまった。

筆者の観察はごく部分的なものであり, 「まったくいなくなった」のかどうかは不明であるが, 少なくとも, それまであたりまえに見られたものが見られなくなった, すなわち極端に減少したのは確かである。

ところが今年10月になって, 団地内のマテバシイで10頭余の幼虫を発見した。8年の空白期間があったわけである。1人の観察であるから, 成虫については見落としている部分もあるかもしれないが, 幼虫を見落とす可能性は低い。今回の発生は, 成虫が近隣の生息地から新たに飛来した可能性が高い。暖地から分布を拡大しつつある蝶であるので, 成虫の飛来も不思議とするにはあたらぬが, 一方で, 特に団地内の環境が変化したわけでも, マテバシイの数が減ったわけでもないのに「なぜ, いなくなったのか」については不明のままである。

同じくこの10月には, 播磨町大中でも, ムラサキツバメの幼虫1を確認した。この場所は広い公園であり, マテバシイも数多く植えられている。2009年以来観察を続けているが, 昨年まではムラサキツバメの幼虫は, 一度も見えていないし, 公園内の環境変化もない。

わずか2箇所での観察であるが, こうした状況を見

ると, 今年, 東播磨付近でムラサキツバメの成虫が拡散した可能性を考えてもよいかもしれない。それはどのような条件によるものなのだろうか。気温や風などの気象条件か, あるいはまったくの偶発的事象か。ムラサキツバメの消滅と再来には, わからない点が残されている。

会員のみなさんも, ご自宅の近所でマテバシイとムラサキツバメを観察していただければと思う。12月でも陽射しのある日には, 食樹の近くで日光浴をする成虫が見られる。

○参考文献

広畑政巳・近藤伸一, 2007. 兵庫県の蝶. 岩峰社, 東京

(Hiroyuki KUBO 兵庫県明石市
兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会)

ムモンコバネ(コバネガ科)の兵庫県からの記録

船本 大智

コバネガ科は現生の鱗翅目では最も原始的な科であり, 成虫が機能的な大顎を持つ(橋本, 2011)。日本のコバネガ科は5属17種が知られており(Hashimoto, 2006; 今田, 2015), 兵庫県からはニッポンヒロコバネ *Neomicropteryx nipponensis* Issiki (図1.a) のみが記録されている(阪上, 2015; 吉富ら, 2016)。

ムモンコバネ *Paramartyria immaculatella* Issiki (図1.b) は全国に広く分布する種でありしばしば *Neomicropteryx* 属などと混生するが(Hashimoto, 2006; 橋本, 2013; 今田, 2015), 兵庫県からは知られていなかった。今回, ムモンコバネが兵庫県宍粟市波賀町赤西溪谷から採集されたため報告する。

3 exs(多数目撃), 兵庫県宍粟市波賀町赤西溪谷(標高500m), 14. V. 2016. 船本大智・杉浦真治・山崎一夫 採集. 阪上洗多 保管

採集した場所は, 阪上(2015)がニッポンヒロコバネを記録した地点とほぼ同じである。溪流沿いのスギ林の林縁において, 飛翔あるいは下草に静止している個体を採集した。100mほど離れた地点にはジャゴケ *Conocephalum conicum* (L.) Dumort. が密生した湿潤な崖があり, ジャゴケを食草とする多数のニッポンヒロコバネの成虫が見られた。また, 少数のニッポンヒロコバネがムモンコバネを採集した同一地点においても確認できた。

ムモンコバネは *Neomicropteryx* 属が見られない低標高地にも確認される傾向があるため(吉富ら, 2016), 調査が進むことでムモンコバネは兵庫県内の各地で確認